

RETAILER ACADEMY NEWS

Jun 2022 | Bentley Motors Japan



ベントレーの新デリバティブ戦略 AzureとSを発表

ベントレー モーターズはこのほど、Beyond 100戦略に基づき、ベンティガ EWB Azureの発表に続いてベンティガ、フライングスパー、コンチネンタルGT、コンチネンタルGTCでもAzureの派生モデルの追加を発表しました。さらに、フライングスパー、コンチネンタルGT、コンチネンタルGTCの3車種に「S」モデルを追加（ベンティガ Sは発表済み）。ベントレー初の電気自動車（BEV）発売までの間、さまざまなお客様の好みに対応可能な、新たなデリバティブ戦略が明らかになってきました。

ラグジュアリー&ウェルネスのAzure

Azureモデルは、ドライバーと乗員がドライブ後でもリフレッシュしてリラックスできていることを念頭に置いた、ウェルビーイングを中心に設計されています。最高品質の素材を使用したエレガントで時代を超越したデザインと、Azure独自のシグネチャー デテールが、直感的に操作できるテクノロジーと調和することで、究極の快適性とウェルビーイングを提供します。エクステリアの「Azure」バッジをはじめ、ブライトクロームのロワーバンパー、Azure専用イルミネーテッドトレッドプレート、ポリッシュ仕上げの22インチホイールなどが、

Azureモデルの存在感を際立たせます。インテリアでは、シートにウェルネスキルトを採用。フロントシート コンフォート スペシフィケーションでは、6種類の設定によるマッサージ機能を使用でき、疲労を軽減して快適性を高めます。ムードライティングは、30種類の色と明るさの光を好みによって選択でき、インテリアのカスタマイズの幅を広げます。

「走り」を全面に出したS

Sモデルは、標準仕様のクロームのエクステリアパーツがグロスブラックに置き換えられ、車の滑らかなラインが強調されます。また、グロスブラックのドアミラーカバーや、ブラックのクアッド テールパイプを備えたスポーツエグゾーストなどが、Sモデルのドラマチックな個性を際立たせています。フェンダーには「S」バッジが装着され、S専用の新デザイン22インチ 10スポークスポーツホイール（ベンティガ Sは専用デザイン22インチ S ディレクショナルホイール）とレッドキャリパーの組み合わせが、外観からも「ドライブの楽しさ」を醸し出します。インテリアはS専用カラスプリットを用意。フルートデザインのシートがスポーティなエッジを演出しています。

Sモデルの動力性能は標準モデルと同等ですが、パフォーマンスにお



いても頂点を求めのお客様には「Speed」モデルをおすすめください。

ちなみに、AzureやS、Speedのさらに上に位置するのが「Mulliner」です。フライングスパー、コンチネンタルGTおよびGTCに設定されているMullinerモデルは、ラグジュアリー、ウェルネス、パーソナライズ、パフォーマンスといった要素をすべて備えた、各モデルの頂点に立つモデルという位置づけとなります。



PRODUCTS

Azureモデルの特徴

EXTERIOR

エレガントで視覚的にも美しい、時代を超越したディテールを採用しています。

- クローム ロワーバンパー グリル
- 専用デザイン22インチホイール
- フロントフェンダーの「Azure」バッジ
- 自然光を車内に取り込むパノラミックサンルーフ（コンチネンタルGTでは固定式）



INTERIOR

ウェルビーイングと快適性を高めるさまざまな選択肢をご用意。

- ウェルネス キルティング
- 3種類のオープンポア ウッドパネル（ダークウォルナット、クラウンカットウォルナット、コア）を選択可
- レザーカラーは全15色から選択可
- Azure専用イルミネーテッドトレッドプレート
- フェイシアパネルの「Azure」バッジ
- 「Azure」ロゴの刺繍



ドライバー支援機能

ドライバーおよび乗員のストレスや疲労を軽減する先進の技術が盛り込まれています。

- ベントレー ダイナミックライド標準装備
- ツーリング スペシフィケーション標準装備

Sモデルの特徴

EXTERIOR

ベントレーのパワーと押し出しの強さにフォーカスした外観を演出する、さまざまな専用モチーフが採用されています。

- グロスブラックのディテール
- ダークティント ヘッドランプ&テールランプ
- フロントフェンダーの「S」バッジ
- トリプルスポーク21インチホイール（標準仕様）
- オプションの専用デザイン22インチホイール（グロスブラックまたはサテン）



INTERIOR

ビジュアルと素材感にこだわったスポーティなインテリアを演出しています。

- Sモデル専用カラスプリット
- フルートデザイン スポーツシート
- フェイシアパネルの「S」バッジ
- 「S」ロゴの刺繍
- Sモデル専用トレッドプレート



ドライブダイナミクス

快適性を犠牲にすることなく、俊敏性や操作性を高める機能が標準装備されます。

- ベントレー ダイナミックライド標準装備
- 4.0リッターV8エンジン（フライングスパーはハイブリッドも選択可）
- フライングスパーはV8エンジン選択でAWSを標準装備



3代目に生まれ変わった ランドローバー・レンジローバー スポーツ

ジャガー・ランドローバーは、2022年5月10日に新型ランドローバー・レンジローバー スポーツを発表。5月25日より受注を開始しました。同モデルとしては3世代目となり、同社のラインアップの中ではラグジュアリーパフォーマンスSUVという位置付けになります。

SUMMARY

- ランドローバーの新しいアーキテクチャー「MLA-Flex」を採用
- 豊富なパワートレインに対応。2024年には電気自動車（BEV）を投入予定
- 最新世代のインテリジェントオールホイールドライブ（iAWD）システムを採用
- アダプティブオフロードクルーズコントロールを初採用
- 特別仕様車「RANGE ROVER SPORT LAUNCH EDITION」を160台発売



EXTERIOR

- 張りのあるサーフェイス、ダイナミックなスタンス、筋肉質なプロファイルにより、レンジローバー スポーツのDNAを継承
- 新デザインのフロントグリルを採用。フラッシュサーフェスウィンドウ、フラッシュドアハンドルなどにより、空気抵抗係数（Cd値）0.29を実現
- 新設定グレードの「DYNAMIC」では、専用デザインのバンパー、サテンおよびマット仕上げのディテールを採用。より精悍なエクステリアを演出



TECHNOLOGY

- あらゆるパワートレインに対応する最新のアーキテクチャー「MLA-Flex」は、ねじり剛性を先代モデルより最大35%向上
- 本国では4.0L V8ガソリンエンジン、3.0L 6気筒PHEV、3.0L 6気筒ガソリンおよびディーゼルを設定を発表
- 日本仕様の3.0L 直列6気筒ターボディーゼルエンジンは、最高出力300PS、最大トルク650Nmを発揮
- 特別仕様車の「LAUNCH EDITION」には、3.0L 直列6気筒ガソリンエンジンを搭載
- 同社初のスイッチャブルボリュームエアスプリングを採用したダイナミックエアサスペンションを標準装備
- オールホイールステアリング（AWS）を装備。時速50km以上では後輪を前輪と同じ方向に操舵、低速では最大7.3度まで後輪を逆方向に操舵
- 最新世代のiAWDシステムの採用により、あらゆる状況下で最適なトラクションを提供。トランスミッションはZF製8速AT
- アダプティブオフロードクルーズコントロールを採用。選択した設定により、地形に対応して車速を自動制御
- 最もダイナミックで俊敏なハンドリングを実現するストーマーハンドリングパックを新設定



INTERIOR

- 従来の高級レザーに加え、高品質のウルトラファブリック™など、アニマルフリーな次世代のサステナブルな素材を採用
- リアコンパートメントは、従来モデルに比べてレッグルームが31mm、ニークリアランスが20mm拡大
- 触覚フィードバック機能付きの新開発タッチスクリーンを装備した最新のインフォテインメントシステム「Pivi Pro」を採用



PRICE

RANGE ROVER SPORT S:	10,680,000円
RANGE ROVER SPORT DYNAMIC S / SE / HSE:	11,190,000 / 12,610,000 / 13,640,000円
RANGE ROVER SPORT AUTOBIOGRAPHY:	15,260,000円
RANGE ROVER SPORT LAUNCH EDITION:	17,086,000円

特別仕様車「RANGE ROVER SPORT LAUNCH EDITION」

- 2022年5月25日から6月30日までの期間限定受注。4色のボディカラーを各40台設定し、計160台
- マイルドハイブリッドテクノロジーを採用した3.0L 6気筒ガソリンエンジンを搭載。最高出力400PS、最大トルク550Nmを発揮
- 23インチ アロイホイール、ブラックエクステリアパック、アダプティブオフロードクルーズコントロール、空気清浄システムプロなどを装備



COMPETITOR INFORMATION

ニューモデル 発売：2022年3月28日 / デリバリー：未定

BMW M850i xDrive/M8 Competition



- ・改良された新型BMW 8シリーズをベースにしたMモデル
- ・MパフォーマンスモデルのBMW M850i xDriveと、MハイパフォーマンスモデルのBMW M8 Competitionを設定
- ・ボディバリエーションは、2ドアクーペ、カブリオレ、4ドアクーペの3種類

車両価格 (税込)	BMW M850i xDrive：	17,730,000円～19,070,000円
	BMW M8 Competition：	24,400,000円～25,870,000円

ニューモデル 発売：2022年6月7日 / デリバリー：未定

ランドローバー・ディフェンダー 130



- ・「90」「110」に加え、8人乗りの「130」をラインアップ。リアオーバーハングを340mm伸長し、2-3-3の3列シートレイアウトを実現
- ・最高出力300PS、最大トルク650Nmを発揮する3.0L直6ディーゼルMHEVエンジンを搭載
- ・限定30台の特別限定車を2022年6月7日～7月10日までの期間限定で受注

車両価格 (税込)	DEFENDER 130 X-DYNAMIC HSE D300：	11,420,000円
	DEFENDER 130 LAUNCH EDITION：	12,078,000円～12,458,000円
	DEFENDER 130 X D300：	13,640,000円

ニューモデル 発表：2022年4月22日 / デリバリー：2023年第1四半期

ランボルギーニ ウラカン テクニカ



- ・専用エクステリアを採用した後輪駆動モデル。ドラッグは20%軽減、ダウンフォース量は35%アップ
- ・ウラカンSTOと同じ5.2L V10自然吸気エンジンを搭載。最高出力640PS、最大トルク565Nm
- ・乾燥重量1379kgで、パワーウェイトレシオは2.15kg/PS。0-100km/h加速3.2秒、最高速度325km/h

車両価格 (税込)	ウラカン テクニカ：	価格未定
--------------	------------	------

ニューモデル 発表：2022年4月15日 / デリバリー：未定

アストンマーティンDBX707



- ・最高出力707PS、最大トルク900Nmを発揮する新開発の4.0L V8ツインターボエンジンを搭載
- ・9速湿式デュアルクラッチ式ATを搭載。0-100km/h加速3.3秒
- ・ブレーキはフロント420mm径、リア390mm径のカーボンディスクと6ピストンキャリパーを採用

車両価格 (税込)	アストンマーティンDBX707：	31,190,000円
--------------	------------------	-------------

ニューモデル 発売：2022年5月24日 / デリバリー：未定

BMW iX M60



- ・電気自動車のSUV、BMW iXのトップモデルとなるBMW Mモデル
- ・2種類の電気モーターを前後に搭載するAWD。システム合計出力619PS、最大トルク1015Nm（スポーツモード1100Nm）。0-100km/h加速は3.8秒
- ・リチウムイオン電池の総エネルギー量は111.5kWh。一充電での走行可能距離は615km

車両価格 (税込)	BMW iX M60：	17,400,000円
--------------	-------------	-------------

特別仕様車 受注開始：2022年4月21日 / デリバリー：2022年第4四半期

BMW 7シリーズ THE FIRST EDITION



- ・2022年第4四半期に導入を予定している新型BMW 7シリーズの初期生産限定モデル
- ・BMW オンライン・ストアのみで受注。限定150台
- ・BMW 740i Excellence、BMW 740i M Sport、電気自動車BMW i7 xDrive60 Excellenceの3モデルがベース

車両価格 (税込)	BMW 740i Excellence THE FIRST EDITION：	17,200,000円
	BMW 740i M Sport THE FIRST EDITION：	17,200,000円
	BMW i7 xDrive60 Excellence THE FIRST EDITION：	19,000,000円

HERITAGE

コンチネンタル70年の歩み 究極のグランドツアラーの系譜

ベントレー モーターズはこのほど、103年の歴史の中でも最も象徴的なモデルであるR-Typeコンチネンタルの生産開始から70年を迎えました。わずか208台しか生産されなかったR-Typeコンチネンタルは、当時でも希少な存在でした。その設計思想とエクステリアデザインは、2003年に登場した初代コンチネンタルGTのインスピレーションの源泉となりました。コンチネンタル シリーズは現行モデルが3代目ですが、登場から70年が経過した今なお、R-Typeコンチネンタルが具現化したベントレーのグランドツーリングのDNAが受け継がれています。

R-Typeコンチネンタルのプロトタイプは1951年に完成し、同年8月から公道での走行が始まりました。生産開始は翌1952年5月で、



最初のお客様のもとに届けられたのが同6月でした。1955年の生産終了までに208台が製造され、ボディ製造はH.J.マリナーが最多の193台、パークワードが6台（ドロップヘッドクーペ4台、クーペ2台）、フラネーが5台、グラバーが3台、ファリーナが1台でした。

現在ベントレー モーターズが所有するR-Typeコンチネンタルは、シャシー番号がBC16C、登録番号がJAS 949の1953年製です。最初のオーナーはスイスのローランド・ゲナン氏で、アイボリーのボディカラーにレッドのレザー、マニュアルトランスミッション仕様で、オリジナルの4.6リッターエンジンとともに現代まで大切に管理・保管されています。機械面の状態も良好なことから、ベントレー本社の敷地内や各種イベントなどでの展示や走行などで、多くの人にご覧いただいています。



マリナーの新しい構成 3つのレベルで究極のベントレーを提供

ベントレー モーターズはこのほど、ビスポーク部門であるマリナーのサービスが、お客様、見込み客の方々、リテーラーの皆様にごできるだけ明確に理解していただけるよう、3つのレベル構成で展開することを決定しました。レベル1が「キュレーテッド by マリナー」、レベル2が「マリナー ビスポーク」、レベル3が「マリナー コーチビルド」です。



LEVEL 1 キュレーテッド by マリナー

ビスポークの世界を最も簡単に感じられるもので、コンフィギュレーターで「By Mulliner」と表示されている機能やボディカラーを選ぶだけで、手作業で仕上げられるマリナーのコンテンツに簡単にアクセスできます。23MYでは、最も人気のあるパーソナル コミッショニング ガイド (PCG) のアイテムの一部がレベル1で利用可能となります。

LEVEL 2 マリナー ビスポーク

本格的に特注の車両を作ることができるサービスです。最も目の肥えたお客様に対し、マリナーのデザインチームと共同で作業する機会を提供するもので、クルーのカスタマールームやデジタル上で、または各地域でお客様のもとを訪問し、真のビスポーク作品を作り上げることが可能です。

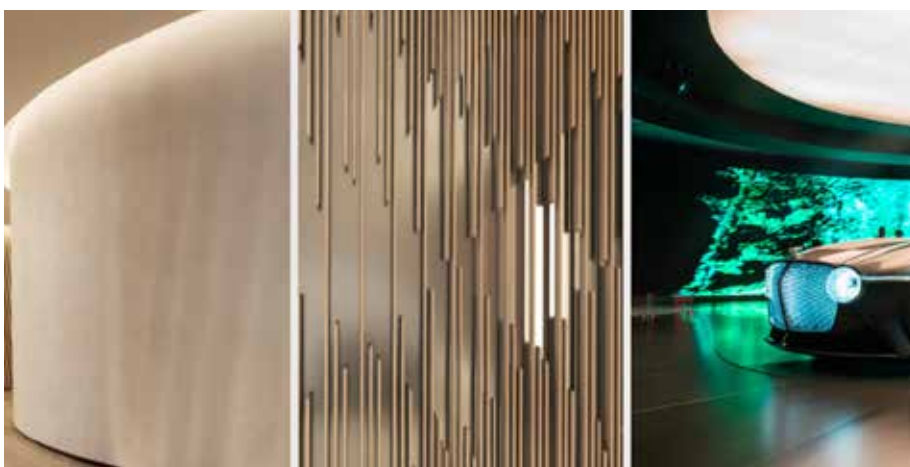
LEVEL 3 マリナー コーチビルド

マリナーの真価を発揮し、頂点を極めるサービスがコーチビルドです。真のエクスクルーシブを提供する限定生産のコーチビルドの最初の例となったのがバカラルでした。また、ティム・バーキンの愛車「プロワー」の「新車」を製造するコンティニュエーション シリーズもマリナー コーチビルドの手によるものです。今後、さらに多くのコーチビルド プロジェクトが発表される予定です。



BRAND

グローバルで一貫性あるアイコン 新しい3Dブランド表現



ベントレー モーターズは、4月に開催したグローバル リテーラー カンファレンス 2022において、新しい3Dブランド表現を発表しました。これは、ベントレーのミッションの価値と象徴的なデザインを組み合わせ、リテーラーのショールーム以外でも高品質でグローバルに一貫したベントレーのブランド体験を提供できるようにするものです。新3Dブランド表現では、ベントレーの核心でもあるイノベーション、サステナビリティ、クラフトマンシップの魔法のような融合を表しています。リテーラーに足を運ぶお客様以外にも、高品質でグローバルに一貫性のあるブランドとして、ベントレーの認知度向上が期待されます。

新3Dブランド表現のキーワードは、「形状」「素材感」「体験」の3つです。「形状」ではマトリックスグリルのモチーフをダイナミックに変化させたものが用いられます。「素材感」としては、明るさとデジタル、そしてエンジニアリング感があり触感の良い素材の組み合わせによって、クラフトマンシップを強調するインタラクティブで進化する体験を打ち出します。「体験」では、車両を展示する際の新しいポップアップを導入します。スペースに合わせてXS、S、M、Lのサイズを用意。環境への負荷を低減する未来のベントレーを運転するように、シームレスでラグジュアリーな、それでいてサステナブルなストーリーに浸れるような体験を提供します。

MARKETING

ECJの実現に向け 「特別な瞬間」での役割にご理解を



リテーラー カンファレンスでもお伝えしたとおり、Beyond 100戦略の一環として、ベントレーはExtraordinaryなカスタマージャーニー (ECJ) を実現し、「お客様との生涯にわたる愛を築く」ことを支援してまいります。

ECJは、10個のダイヤモンドで示した特別な瞬間をつなげたもので、お客様がブランドを初めて体験してから製品を購入、所有、そして再購入するまでの道のりのガイドラインとして設計されています。各ダイヤモンドでは、恋人同士が会ってから結婚に至り、永遠の愛をあらためて誓うまで、といった具合に、お客様とベントレーとの関わりを実際の人間関係に見立てて説明した概念図（上の図を参照）をご紹介しました。

リテーラーの皆様には、特にダイヤモンドの4～10で重要な役割を担っていただくことになります。ご成約いただいてから次の車両の購入へと続く各ステップにおけるリテーラーの皆様の役割をご理解いただき、日々の業務に反映してくださいますようお願いいたします。

なお、リテーラー マーケティング ニュースのウェブサイト (英文) では、ECJのページを設けて詳細に解説しています。ぜひ1度ご確認ください。

[Extraordinary Customer Journeys](#)

4WDの基礎知識 後編

4WDをどのように活用するのか？

世界的なSUVブームで、今や4WDは、ごく当たり前の技術となっています。
今回は、4WDであることで、クルマの走行性能はどのように変化するのか？また、どんなメリットやデメリットがあるのかを説明します。



パートタイムとフルタイムの違い

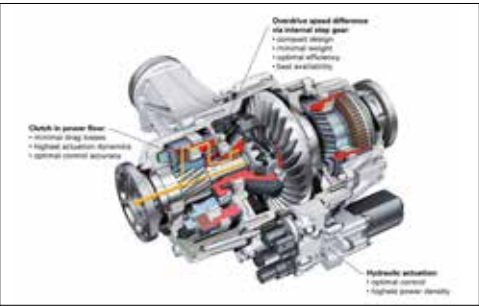
4WDには、いくつかの種類があります。まず、走行中常に4輪にパワーをかけ続けているものを「フルタイム4WD」と呼びます。一方、走行状況などによって2WDと4WDを使い分けるのが「パートタイム4WD」となります。パートタイム4WDは、手で2WDと4WDを切り替える「セレクトティブ式」と、自動で切り替わる「オンデマンド式」が存在します。始祖的な4WD車は、悪路などに差し掛かったときに手で4WDに切り替えていました。ただし、今では手動切り替えは少数派です。多くの4WDはオンデマンド式、もしくはフルタイム4WDとなっています。オンデマンド式のパートタイム4WDは燃費性能に有利で、フルタイム4WDは走行安定性能面に優れます。



最新の4WD車は、パートタイム式でもフルタイム式でも、ほとんどのモデルが自動で駆動力を変化させます。

センターデフの仕事

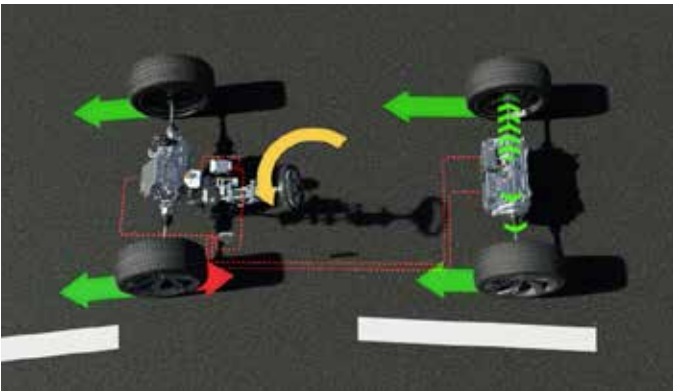
エンジンの力を前後輪に配分するのがセンターデフ（トランスファー／カップリング）の仕事です。最新モデルの大多数は電子制御化されており、自動で前後輪へのトルク配分を変化させています。オンデマンド式のパートタイム4WDは、走行中に前後輪のどちらかへのトルク配分がゼロになります。一方、フルタイム4WDは前後のトルク配分を変化させつつも、どちらかがゼロになることはありません。また、センターデフによって前後車輪の作動の差を許さない状態にすることを「直結」や「ロック」と呼びます。センターデフを直結／ロックさせていれば、4輪のどれかが浮いても、他の車輪へのトルク配分が失われることはありません。ひどい悪路を走るときに必要なのが、センターデフの直結／ロックとなります。



エンジンからの力を前後輪に配分するのがセンターデフ／トランスファーです。力の配分にはギヤやクラッチなどを使う機構が採用されています。

4WDならではのコーナリング

駆動方式によってコーナリング性能の特性は変化します。前輪駆動の場合、曲がる力と駆動する力を前輪のみで行うため、曲がりにくいアンダーステア傾向が強まります。一方、後輪駆動はコーナリングで後輪側がグリップを失うオーバーステア傾向を持っています。そして、センターデフを直結／ロックさせた4WD車は、きついコーナーで自前の4輪が曲がることを邪魔して曲がりにくいという特性があります。最新の4WD車は、電子制御で前輪と後輪の駆動力を自在に変化させることができるため、前輪駆動車と後輪駆動車の良いところを両方実現させることが可能です。また、直進時も4輪で駆動した方が、安定感が高まります。



最新の4WD車は、前後輪の駆動力を自在に変化させ安定したコーナリングを実現します。さらに左右輪のトルク配分を変化させればコーナリング力をアップさせることが可能です。

4WDのメリットとデメリット

○ (メリット)	× (デメリット)
悪路でのトラクション力が高い	走行抵抗が大きいため燃費性能が不利
直進時やコーナリングの安定感が高い	機構が多くて複雑なため重量が重くなる
ハイパワーを使いこなすことができる	複雑な機構のため壊れると修理が大変